

## 第4学年1組 音楽科学習指導案

- 1 題材名 日本のお囃子に親しもう  
教材名 鑑賞 「ソーラン節」(北海道民謡)「南部牛追い歌」(岩手県民謡)  
表現 「こきりこ」(富山県民謡)  
鑑賞・表現 「さくらさくら」(日本古謡)  
音楽づくり 「五音音階でお囃子の旋律づくり」

### 2 題材について

#### 《学習指導要領との関わり》

- |        |  |
|--------|--|
| A 表現   | (1) イ 歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。<br>ウ 呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌うこと。<br>(2) イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。<br>(3) イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。 |
| B 鑑賞   | (1) ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。<br>イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。<br>ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。   |
| [共通事項] | (1) ア 音楽を形づくっている要素のうち次の(ア)及び(イ)を聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること。<br>(ア) 音色、リズム、旋律、音階や調<br>(イ) 反復、変化  |

#### (1) 題材観

本題材は、日本の音楽の歌い方や拍の流れに注目して民謡を鑑賞すること、古くから伝わる我が国の伝統楽器にも触れること、親しみをもって表現することをねらいとしている。本題材の学習では我が国ならではの雰囲気や特徴を感じ取り、日本の伝統音楽や芸術を身近に感じることが必要とされる。日本の伝統文化を大切にすることは、我が国の音楽の心情を育てる気持ちにつながっていくと考え、本題材を設定した。

3年生のときに同じ題材である「日本のお囃子に親しもう」で、郷土に伝わるお囃子を学習してきた。お囃子の特徴や使われる楽器の特徴や音色に注目しながら鑑賞し、日本の音楽への興味関心を高めるきっかけとなった。また、三つの音「ラ・ド・レ」を使っての旋律づくりにも取り組み、自分たちでつくった旋律に和太鼓などのリズム伴奏を加え、日本の旋律(お囃子の旋律)らしい雰囲気を味わいながら、自然に日本の音階の特徴を感じ取ることを学習した。

そこで、3年生で学習したことを生かして、4年生ではさらに、我が国や郷土に伝わる音楽のよさや特徴を感じ取りながら学習を進めていく。本題材では、民謡を聴いて歌声や旋律の特徴を感じ取ったり、

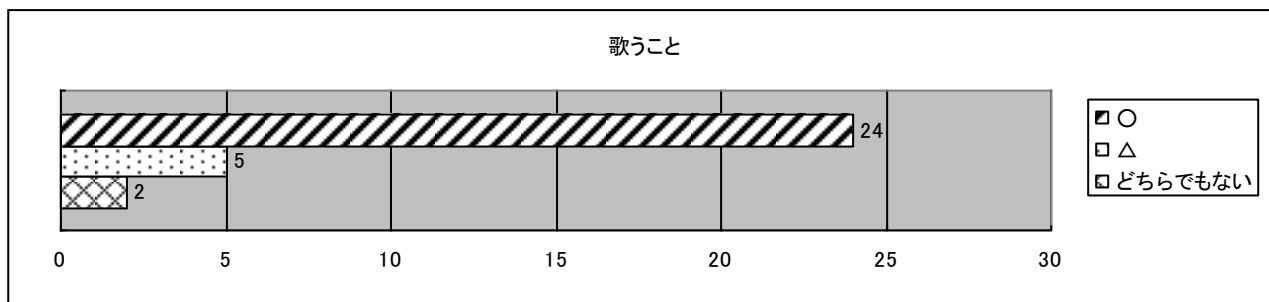
有拍と無拍のリズムの違いに気付かせたりして、日本の音楽についての学習を深めていきたいと考える。さらに、五音音階でできていることにもふれながら、その趣を感じ取らせ、日本らしい雰囲気を楽しませたい。「さくらさくら」では、日本の風景や情景を想像させながら日本語のもつ言葉の美しさや日本の旋律を味わい、日本の伝統楽器である箏に触れさせていく。題材の最後に旋律づくりにも取り組んでいく。五つの音「ミ・ソ・ラ・ド・レ」を使ってお囃子をつくることで、日本の伝統的な音階による旋律のよさや面白さを感じ取らせ、5年生の学習につなげていきたい。

日本の発展にともない変わりゆく風景や生活環境の中で、民謡やお囃子、昔遊びの手遊び歌といった古くから伝わる日本の音楽を知らない子供たちが増えてきている。この題材の学習を通して、日本の文化や伝統音楽を身近に感じ、親しみをもつことができるようにさせていきたいと考える。

(2) 児童の実態 (男子 15名 女子 16名 計 31名)

本学級は、明るく元気で、積極的に活動に取り組む児童が多い。ただ、自信を持って表現することが苦手の児童も中には数名いる。また、本来持っている自分の力を出せず、戸惑う様子も見られる。事前のアンケートの結果は以下のとおりである。(実態調査日 H30. 7. 12)

① 好きな活動に○を、苦手な活動には△をつけてください。またその理由も書いてください。

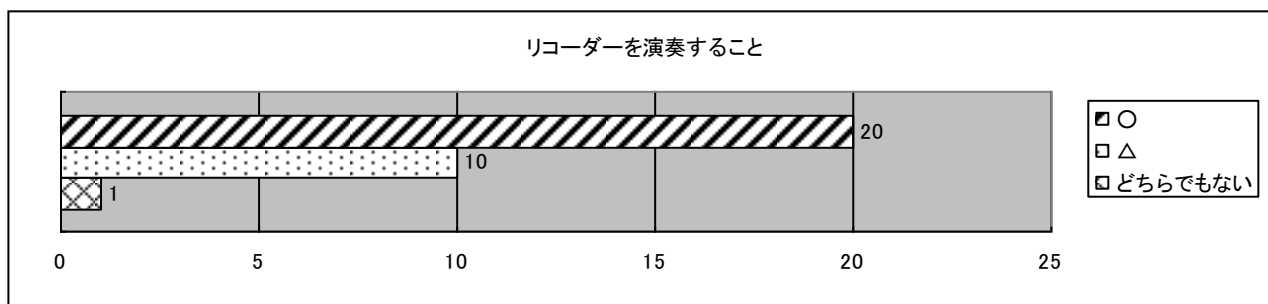


<○の理由>

- ・楽しい (8名)
- ・みんなで歌うのが好き。(5名)
- ・みんなで合わせられると仲良くなるから。(1名)
- ・元気になるから。(1名)

<△の理由>

- ・あまり声が出ない。(1名)
- ・めんどくさい。(1名)
- ・疲れる。(1名)

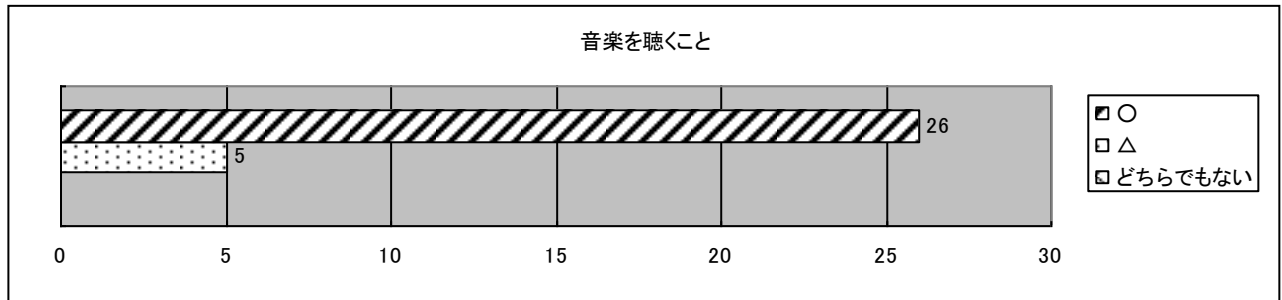


<○の理由>

- ・うまくできると嬉しい。(2名)
- ・音色が好き。(1名)

<△の理由>

- ・指づかいがわからない。
- ・めんどくさい。
- ・難しい。
- ・綺麗な音が出ない。(各1名)

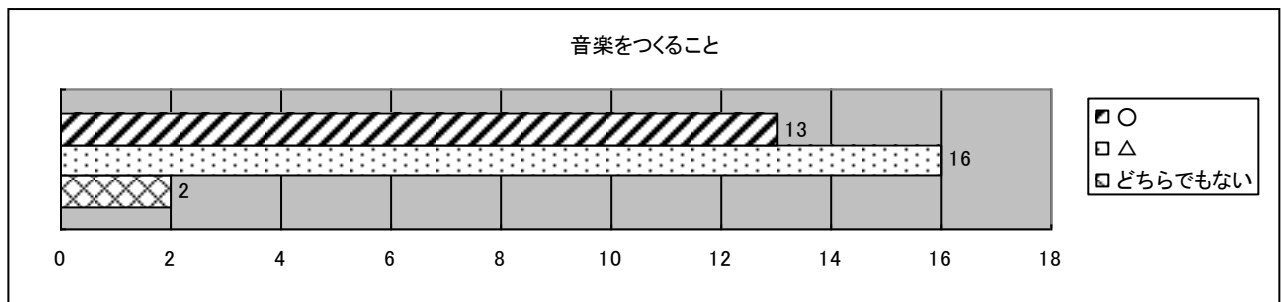


<○の理由>

- ・音楽が好き。(8名)
- ・優しい気持ちになる。(1名)
- ・いい音楽に出会えると嬉しい。(1名)
- ・心が穏やかになる。(1名)

<△の理由>

- ・うるさいときがある。(1名)

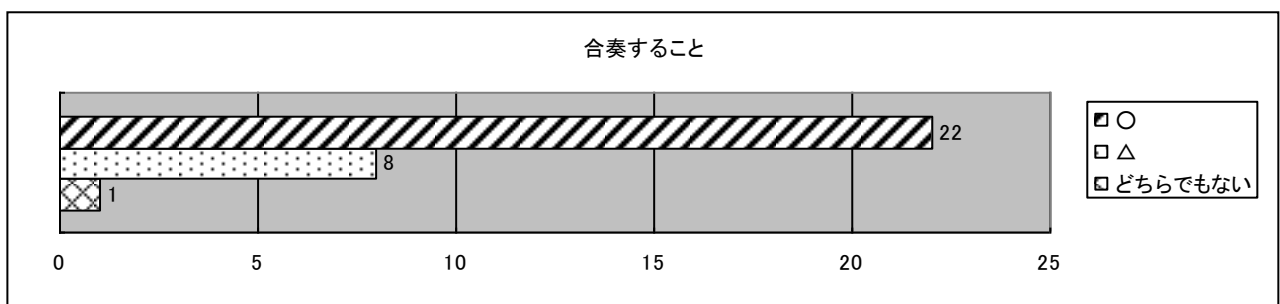


<○の理由>

- ・友達に聴かせてすごいと言わせたい。
- ・創造するのが好き。
- ・自分のオリジナルだから。(各1名)

<△の理由>

- ・迷う。
- ・難しい。
- ・うまくつけれない。(各1名)

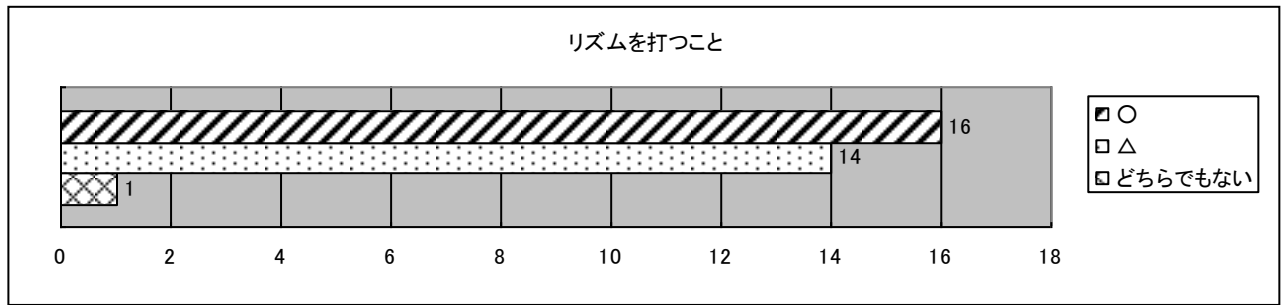


<○の理由>

- ・合わせると楽しい。(3名)
- ・心が一つになる。(1名)
- ・色々な音ができる。(1名)

<△の理由>

- ・めんどくさい。
- ・難しい。(各1名)



<○の理由>

- ・楽しい。(1名)

<△の理由>

- ・リズムにのれない。(1名)

[日本の音楽について]

② 日本らしい曲といえば何が思いうかびますか？

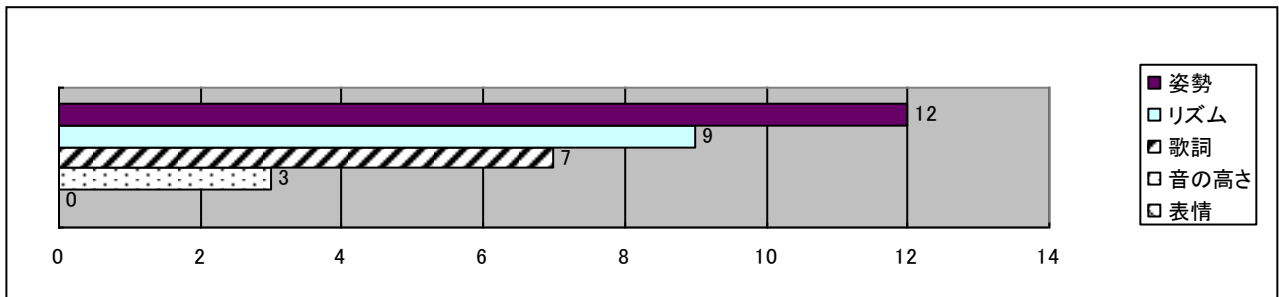
- ・君が代 ・演歌 ・ひまわりの約束 ・夏祭り ・海の声 ・千本桜 ・ふるさと
- ・さくらさくら ・シンデレラガール ・ソーラン節 ・校歌 ・風になりたい

③ 日本の音楽で使われている楽器で知っているものを書きましょう。

- ・たいこ・ハーモニカ・リコーダー・三味線・カスタネット・ギター・すず・トライアングル
- ・フルート

[歌唱について]

④ 歌を歌う時、どういう事に気をつけて歌いますか？



<姿勢の理由>

- ・大きな声のでる ・相手に歌声が届く ・綺麗な声のでない ・上手に歌える
- ・カッコ悪いからなど

<リズムの理由>

- ・リズムがずれるとみんなと合わない ・リズムにのらないと歌えない
- ・みんなとバラバラになる ・リズムにのると気分がいいからなど

<歌詞の理由>

- ・歌詞をおぼえた方が歌いやすい ・間違えると恥ずかしい
- ・自分が間違えるとみんなも間違えるからなど

<音の高さ>

- ・高さを合わせないと友達と合わない
- ・先生が大事と言った
- ・いつも声が小さいからなど

[児童がもつ言葉に対するイメージ]

⑤ それぞれの気分を言葉に表すとどんな言葉がありますか？

[落ち着いた]

- ・ゆっくり (10)
- ・しずか (4)
- ・やさしい (4)
- ・リラックス
- ・ゆったり (2)
- ・なめらか
- ・歌を歌った後
- ・ほっとする
- ・おだやか (3)

[やさしい]

- ・ゆっくり (8)
- ・うれしい (3)
- ・おだやか (3)
- ・ふんわり (2)
- ・きれいな
- ・たのしい
- ・落ち着く
- ・なめらか (2)

[こわい]

- ・怒っている (3)
- ・びくびく (2)
- ・うるさい (2)
- ・おこっている (2)
- ・おばけやしき (2)
- ・おどろく (2)
- ・ぞっとする (2)
- ・おそろしい
- ・悲しい
- ・ふるえる
- ・ぎざぎざ
- ・恐怖

[勇ましい]

- ・勇気がある (9)
- ・強い (2)
- ・冒険する
- ・はげしい
- ・はやい
- ・かっこいい

[楽しい]

- ・うきうきしている (3)
- ・うれしい (2)
- ・わくわく (2)
- ・盛り上がる (2)
- ・激しい (2)
- ・盛り上げる (2)
- ・心がはずむ (2)
- ・おもしろい
- ・遊んでいるとき
- ・愉快
- ・適当な
- ・楽しい
- ・心がおどる
- ・あそぶ
- ・ゆらゆら
- ・元気がでる
- ・ハッピー

[悲しい]

- ・嫌な感じ
- ・誰かと離れるとき
- ・泣きそう (3)
- ・さみしい (2)
- ・なめらか
- ・よくない事がおきる
- ・ゆっくり

[元気な]

- ・楽しい (2)
- ・力が出る
- ・行進する
- ・はげしい
- ・はずむような
- ・盛り上がる
- ・はねるような
- ・気持ちがいい

[はずむ]

- 飛び跳ねる (5)
- ・ジャンプしている感じ (4)
- ・心がはずむ (3)
- ・はじける
- ・強い
- ・はしゃぐ
- ・楽しい
- ・スキップ
- ・うきうき

[おかしい]

- ・変な感じ (4)
- ・ごちゃごちゃ (2)
- ・バカな人 (2)
- ・ふざけている (2)
- ・変な感じ (4)
- ・廊下にたたされる
- ・おこられる
- ・変化がある

[はつらつ]

- ・飛ぶような (5)
- ・はねる
- ・元気いっぱい

半分以上の児童は、「言葉の意味が分からない」と答えたり、答えられなかったりした。

[音色についての言語]

⑥ リコーダーの音色はどんな感じの音ですか？

・なめらかな音・高い音・やさしい・はずむような音・黄色・オレンジ・みどり・音色の意味が分からない(多数)

⑦ ピアノの音色はどんな感じの音ですか？

・ゆったりする音・やさしい・元気・きれい・雑のない音・なめらか・赤・紫・青・音色の意味が分からない(多数)

<考察>

アンケートの結果から、歌うことや合奏など、みんなで合わせる活動が楽しいと感じている児童が多いことがうかがえる。一方で、一人で音楽を追究することや、頭で考えて音楽のもつよさを理解した上で音楽を聴いたり音楽をつくったりするなどの活動は取り組むことが苦手であると思われる。そして、自信と基礎知識がないため、深く音楽を楽しむことができていないと考えられる。また、音楽を聴くことは好きだが、言葉にして表現することへの苦手意識と語彙力の乏しさから音楽の活動への意識が低くなってしまっている。さらに、このアンケートの前にリズム遊びをした際には、見よう見まねで活動しているだけで、身体の中で拍を感じ取るという感覚がなく、目の前のことをまねすることに必死で、リズムにのれない児童が多く見られた。

また、音符の名前や音符の長さなどの理解が十分でないことがうかがえるため、音楽の基礎基本をしっかり身に付ける必要があると考えられる。

そこで、日常から音楽を聴いて感じた事ことを言葉で表現できるように「音楽の感じシート」をファイルに綴じさせるようにしたり、音色を言葉で表すものや、音楽の要素や基礎知識がいつでもわかるように掲示したりすることで、学習意欲をもたせたい。

日本らしい曲については、教師が想定していた日本の曲と児童が思う日本の曲の感じ方に違いがあるということが分かった。時代に合わせた学習や色々な考えを取り入れることも必要だと感じるが、伝統的な日本のよさが失われているようにも思う。日本の楽器についての質問でも同じようなことがうかがえる。日本の伝統楽器への興味の無さや、伝統音楽に触れる機会が少ない地域性も関係しているのではないかと考えられる。

以上の考察から、基礎基本の定着を図り、音楽を心から表現し楽しみながら深めることができる学習をしたいと考える。本題材を通して、日本の音楽に慣れ親しみ、興味をもって日本の楽器や、美しい風景、言葉の美しさについて知り、言語活動の充実を図りながら心豊かな音楽表現を工夫することで、中学校への深い学びの活動につなげたい。

### (3) 指導観

本題材では、第一次で「ソーラン節」「南部牛追い歌」を鑑賞する。民謡についての背景を伝え、どのような仕事歌なのかイメージをふくらませながら聴くように促していく。拍のあるものと拍のないものの2曲を聴かせ、リズムの違いに気付くことができるように配慮したい。手拍子をしながら聴くなどして、違いを感じ取れるように助言する。

千葉県民謡「大漁節」の鑑賞では、自分たちの住む地域の音楽にも親しみを持たせたい。さらに、「ソーラン節」「南部牛追い歌」の2曲について、気付いたこと感じたことを、言葉にして発表させる。その際、聴いたことを言葉にして言えるように、音楽の感じや気分を表す言葉の表などを掲示し、音楽を表現する言葉を増やしたい。

次に、前時までに鑑賞した民謡と比べながら「こきりこ」を聴く。こきりこの意味や、実際のこきりこやびんざさらを見せて、楽器に触れさせることで、日本の民謡の音楽の雰囲気を感じ取り、歌詞の意味を理解できるように学習を進める。またここでは、日本の旋律の特徴（五音音階）を意識させて、主旋律を歌う活動も行う。伸ばして歌うところや音の高さに気を付けて歌うことで、曲の雰囲気にふさわしい歌い方を工夫できるようにしたい。さらに、2つのパートに分けて、1つのパートは副次的な旋律「デデレコデン」といったお囃子言葉を歌わせるなどして、主旋律と副次的旋律の重なる面白さに気付かせ、興味をもたせたい。その際、副次的旋律のパートをもう一つ増やしリコーダーで「デデレコデン」に合わせて演奏することで民謡の雰囲気を味わえるようにしたい。締め太鼓、和太鼓、鈴、こきりこやびんざさらなどの楽器を使用し、教科書のリズム伴奏も入れて実際の「こきりこ」の楽曲に近付けることでいちだんと親しみを持つように指導を進めたい。

第二次では、日本の曲を代表する曲でもある「さくらさくら」を鑑賞と関連付けながら歌唱する。まず、「さくらさくら」の歌詞を音読し、日本の風景や情景をイメージさせる。その際には分かりにくい言葉の意味をおさえる。また、桜の写真を見せ、満開の桜や花びらがひらりひらりと散る様子や花びらが舞う様子などをイメージしてふくらませることで、日本の風景や言葉の美しさを味わいながら鑑賞できるようにする。前次までに学習してきた五音音階に関連させて階名で歌わせ、「ミ・ファ・ラ・シ・ド」の5つの音だということに気付かせることで、日本の（伝統的な）音楽の多くが5つの音があることにもふれていく。

また、日本の伝統楽器である箏を紹介する。箏を実際に演奏し、箏の音色や様々な演奏方法に着目させることで、桜の様子をさらに思い浮かべられるようにする。例えば、「ティロティロと聴こえるところは、まるでひらひらと舞う桜の花びらのようだ」という気付きから、「桜が舞うように柔らかい感じで歌いたい」といった思いを持たせることで、桜の美しい情景を思い浮かべながら歌うことができるように促したい。

第三次では、本題材のまとめとして、五音音階の5つの音を使ってお囃子の旋律づくりをする。まず音符カードを使用し、4分の4拍子で2小節のお囃子のリズムをつくるようにする。メトロノームを使い、拍が一定になるようにしながら、グループでつくったリズムを打って発表し合う。そして、リコーダーで「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の5つの音を確かめながら、気に入った旋律をつくるようにする。グループでリレーするなどして、つなげて演奏できるようにすることで、友達がつくったお囃子を共有しながら学ぶことができるようにする。

また、つくった旋律にリズム伴奏を合わせてグループで一つの曲に仕上げていく。その際に、グルー

プの中でリズム伴奏や楽器の役割分担を決めて練習をする。最後にそれぞれのグループがつくったお囃子を全体で発表し合う。それぞれが自信をもって発表できるように言葉かけをし、達成感を持つことができるようにしたい。

### 3 題材の目標

- 日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取りながら、聴いたり表現したりして、郷土の音楽に親しむ。
- 日本の旋律の特徴を感じ取り、音の音楽に構成する過程を大切にしながらまとまりのある旋律をつくる。

### 4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度（関）	音楽表現の創意工夫（創）	音楽表現の技能（技）	鑑賞の能力（鑑賞）
① 郷土の音楽に興味・関心をもち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に取り組もうとしている。【関①】 ②ふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関②】	① 楽器の音色、リズムやフレーズを聴き取り、我が国の音楽の旋律の特徴を感じ取り、それに合う楽器の音色やリズムの組み合わせ方を工夫している。【創①】 ② リズムや五音音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、拍の流れのによってリズムや音の組み合わせを工夫し、旋律をつくっている。【創②】	① 日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、曲想にふさわしい自然で無理のない声で歌っている。【技①】 ③ リズムや音を組み合わせ、まとまりのある旋律をつくっている。【技②】	① 我が国の民謡の歌声やリズム、旋律などの特徴や違いを感じ取り、感じ取ったことを言葉で表すなどして、それぞれの楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。【鑑①】 ② 箏の音色の特徴、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。【鑑②】

### 5 研究の視点について

#### 【視点1】9年間を見通した学び方の共有

本題材では、「歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと」「歌い方や拍の流れに注目して民謡を鑑賞し、古くから伝わる我が国の音楽を親しみながら、その雰囲気や特徴を感じ取れること」「我が国や諸外国の音楽の特徴を感じ取ったり、そのよさを味わったりしながら、それぞれの音楽に親しんでいくこと」をねらいとしている。これは中学校での「曲想を感じ取り、表現を工夫して演奏すること」「楽器の特徴をとらえ、基礎的な奏法を身に付けて演奏すること」「声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて演奏すること」につながるものである。



本題材の教材「さくら さくら」は、中学校でも扱われている。旋律が五音音階でつくられており、歌詞の内容とも合わさって、日本の音楽の特徴を感じ取りやすい曲であるので、小学校では日本の音楽の雰囲気や特徴を感じ取ったり、よさを味わったりすることを大切にしたい。

そこで、4年生では「さくら さくら」を鑑賞し、箏の音色や様々な演奏方法に親しませる。美しく咲き誇る桜や舞い散る花びらの様子と、箏の音色を結びつけながら鑑賞することで、古くからある日本の情景を味わいながら、日本の音楽の雰囲気を感じ取らせたいと考える。また、5年生では実際に箏で「さくら さくら」を演奏する。基本的な箏の演奏の仕方を知り、日本の伝統的な楽器の演奏を体験することで、和楽器の響きや旋律の美しさを味わわせたい。そして、6年生では日本の伝統音楽である雅楽の鑑賞を通して、日本に昔から伝わっている楽器の音色を味わうことで、日本の音楽に親しませたい。

このように、小学校において日本の伝統楽器の音色に親しんだり、日本の音楽の雰囲気を感じ取ったりしておくことで、中学校で箏の表現を工夫したり、合奏したりすることの素地となり、中学校の学習でのより深い学びにつながると考える。

## 6 題材の指導計画及び評価規準（7時間扱い）

次	時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
第一 次	1	ねらい 特徴を感じ取りながら、日本の民謡を聴いたり歌ったりする。 ○郷土の音楽の背景を知り、曲想を感じ取って聴く。 ・曲の感じや歌詞からどのような仕事をするときに歌っていたのかを想像する。 ・「ソーラン節」の生まれた背景を知る。 ・合いの手や掛け声、動作などを真似て口ずさみながら聴く。 ・「南部牛追い歌」を聴き、どのような仕事をする時に歌ったものなのかを想像しながら聴く。 ○2曲を聴き比べ、旋律やリズムの特徴を感じ取る。 ・2曲の旋律の特徴を感じ取りながら聴く。 ・手拍子を打ちながら2曲を聴き比べてリズムの違いを感じ取る。 ○楽曲を聴いて感じ取ったことを言葉で表す。 ・感じたことや気付いたことをワークシートにまとめる。 ・記入したものを発表し、意見を交換する。	郷土の音楽に興味・関心をもち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に取り組もうとしている。 <b>【関①観察】</b> 我が国の民謡の歌声やリズム、旋律などの特徴や違いを感じ取り、感じ取ったことを言葉で表すなどして、それぞれの楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。 <b>【鑑①ワークシート】</b>
	2	○曲想との違いに気付いて、旋律の特徴を感じ取って歌う。 ・前時までに鑑賞した民謡と比べながら、「こきりこ」の特徴を感じ取って聴く。 ・歌詞の意味や原曲を知る。 ・音の高さやリズムに気を付けて主な旋律を歌う。 ・歌詞をのぼして歌う部分や息つぎに気を付けて主な旋律を歌い、曲の雰囲気にふさわしい歌い方で歌う。 ・階名で歌うなどして五音音階に気付く。	郷土の音楽に興味・関心をもち、楽曲の特徴に気付いて聴く学習に取り組もうとしている。 <b>【関①観察】</b>

		<p>○主な旋律と副次的な旋律を重ね合わせて歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「デデレコデン」の囃子言葉やリコーダーで副次的な旋律を演奏する。</li> <li>・2つのグループに分かれ、主な旋律と副次的な旋律を重ね合わせて演奏する。</li> </ul>	
第二次	3	<p>ねらい 日本の音楽の雰囲気を感じ取り、自分の思いをのせて「さくら さくら」を歌う。</p> <p>○歌詞を理解し、情景を想像して聴いたり歌ったりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さくらさくら」を聴いて、曲想をつかむ。</li> <li>・分かりにくい言葉の意味を知り、歌詞を音読する。</li> <li>・桜の写真を見て情景を思い浮かべながら口ずさむ。</li> <li>・階名で歌い、五つの音で曲がつくられていることに気付く。</li> </ul>	<p>日本語の発音や呼吸の仕方に気を付けて、曲想にふさわしい自然で無理のない声で歌っている。</p> <p><b>【技①演奏聴取】</b></p>
	4	<p>○箏の音色の親しみをもち、桜を思い浮かべて表現して歌う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・箏の楽器について知る。</li> <li>・箏の音色の特徴を感じ取りながら、「さくらさくら」の演奏を聴く。</li> <li>・桜のイメージや桜の情景や風景を言葉で表す。</li> <li>・箏の演奏に合わせてリトミックスカーフを動かし、桜が舞い散る様子をイメージする。</li> <li>・桜の様子をイメージしながら、「さくらさくら」を歌う。</li> </ul>	<p>箏の音色の特徴、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。</p> <p><b>【鑑②発言内容】</b></p> <p>ふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。</p> <p><b>【関②観察】</b></p>
第三次	5	<p>ねらい 五つの音で、お囃子の旋律やリズム伴奏をつくる</p> <p>○音符カードを使って、4分の4拍子で2小節のお囃子のリズムをつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音符カードの組み合わせの例を見て、リズム唱をしたり、リズム打ちをしたりする。</li> <li>・楽器を使用してリズム練習をする。</li> </ul>	<p>リズムや音を組み合わせ、まとまりのある旋律をつくっている。</p> <p><b>【技②観察】</b></p>
	6	<p>○自分達で作ったお囃子に合うリズム伴奏をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの楽器がどのようなリズムを打っているのかを聴き取る。</li> <li>・リズム伴奏の例、ア・イ・ウを使ってリズム伴奏をつくる。</li> <li>・グループに分かれ、楽器を選んでリズム伴奏を練習する。</li> <li>・曲の雰囲気に合う出し方、始め方や終わり方を工夫する。</li> </ul> <p>○歌と楽器を合わせて演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくったリズム伴奏を発表し、歌に合わせて演奏する。</li> </ul>	<p>楽器の音色、リズムやフレーズを聴き取り、我が国の音楽の旋律の特徴を感じ取り、それに合う楽器の音色やリズムの組み合わせ方を工夫している。</p> <p><b>【創①観察・演奏聴取】</b></p>
	7	<p>○つくったリズムと五つの音を使って、お囃子の旋律をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーで、「ミ・ソ・ラ・ド・レ」の五つの音を確認しながら、気に入った旋律をつくる。</li> </ul>	<p>リズムや五音音階を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取って、拍の流れのってリズムや音の組み合</p>

	<p>○つくった旋律を友達とリレーして、リコーダーで演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導者の打つ拍に合わせて、つくった旋律を友達とつないで演奏する。</li> <li>・打楽器を入れて、4時で学習したリズム伴奏ア・イ・ウと合わせ演奏する。</li> <li>・グループで完成させたお囃子を発表し合う。</li> </ul>	<p>わせを工夫し、旋律をつくっている。【創②演奏聴取・ワークシート】</p> <p>リズムや音を組合せて、まとまりのある旋律をつくっている。</p> <p>【技②演奏聴取】</p>
--	---	---

## 7 本時の学習（4／7）

### （1） 本時の目標

○箏の音色を味わって聴き、感じたことを表現することができる。

### （2） 展開

時配	学習内容と学習活動	○教師の関わり ◆評価規準（評価方法）
1	<p>前時までの学習を振り返り、「さくら さくら」を歌う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・階名で歌い、五音音階を意識する。</li> </ul>	<p>○五音音階や雰囲気味わいながら歌唱できるように助言する。</p>
2	<p>本時の目標を知る。</p>	<p>桜の様子を思い浮かべながら、箏の音色を味わおう。</p>
3	<p>「さくら さくら」の演奏を聴く。</p> <p>[児童の予想される箏の音色を表す言葉]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひびく音」・「ふわふわした音」</li> <li>・「はっきりした音」・「やさしい音」など</li> </ul>	<p>○教師が「さくらさくら」を箏で範奏して聴かせる。</p> <p>○言葉が出てこない際は、音色を表す言葉の表の掲示を見るようにと促す。</p>
4	<p>箏について紹介する。</p>	<p>○実際に箏を見せることで、箏に対する親しみを持たせる。</p> <p>○箏について部位の名前など簡単に説明し興味・関心を持たせる。</p>
5	<p>箏のそれぞれの奏法の音色を聴き、感想を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7つのグループに分かれて、それぞれの演奏方法の音色を聴いて表現する。</li> <li>・表現した言葉をホワイトボードに書く。</li> </ul>	<p>○桜の風景写真を見せ、イメージを持ちやすくさせる。</p> <p>○造花の花びらを散らせて見せ、桜が舞い散る様子をイメージできるようにする。</p>

<p>[児童の予想される表現]</p> <p>① 引き色・・・花びらがふわっと浮かぶように動かす</p> <p>② 合わせ爪・・・満開の桜のように強く大きく動かす</p> <p>③ 左手・・・桜が優しく揺れているように動かす</p> <p>④ すくい爪・・・散った花びらが舞い戻るように動かす</p> <p>⑤ 裏連・・・桜が風に吹かれて花びらが舞い散るように動かす</p> <p>⑥ かき爪・・・風が強く吹いて花びらが落ちるように動かす</p> <p>⑦ 突き色・・・蕾からぱっと花が咲くように動かす</p> <p>6 「さくらさくら」を歌う。</p>	<p>○教師が範奏し音色を聴かせることで、箏を身近に感じやすくし、桜の様子を思い浮かべられるようにする。</p> <p>○児童から出た発言や言葉に合わせて、箏で桜の様子を表現することで、児童のイメージを膨らませる。</p> <p>○リトミックスカーフを使用し、グループで出た言葉や、なぜそのように動かしたのかを発表させ、児童が感じ取ったことを共有できるようにする。</p> <p>◆箏の音色の特徴、楽曲全体にわたる曲想とその変化を感じ取って聴いている。 【鑑②】（発言内容）</p> <p>○箏の音色や演奏から感じたことを表現して歌うよう声かけをする。</p> <p>○どのように歌ったか、なぜ、そのような表現をしたのかを聞き、箏の音色や演奏から、感じ取ったことを共有する。</p> <p>◆ふさわしい表現を工夫して、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 【関②】（観察）</p> <p>○箏の音色や日本の風景や音階、言葉の美しさなどの日本の文化に親しみをように声かけをし、次につなげる。</p> <p>○中学校でも「さくらさくら」を学習することを伝える。</p>
---	--